

第2回富来義務教育学校及び富来地域避難拠点施設整備（案） に係る町民説明会

令和8年6月19日（金）午後7時より

富来活性化センター 1階 中ホール

次 第

1 開会あいさつ

2 事業説明

富来義務教育学校及び富来地域避難拠点施設整備（案）について

担 当 課：学校教育課

設計事業者：株式会社 五井建築研究所（金沢市）

3 意見交換

4 その他

富来地域学校づくり準備委員会 組織体制（案）について

担 当 課：学校教育課

5 閉 会

富来義務教育学校及び富来避難拠点施設整備(案)について

床面積表	遊覧船処点施設
	現提案
1 F	2, 0 5 3 m ² (ヒロティ除く)
2 F	2, 1 0 8 m ² (吹抜ナ・ネット遊具は除く)
R F	4 7 m ²
遊覧船区画	2 8 8 ~ 3 2 0 人
延床	4, 2 0 8 m ²

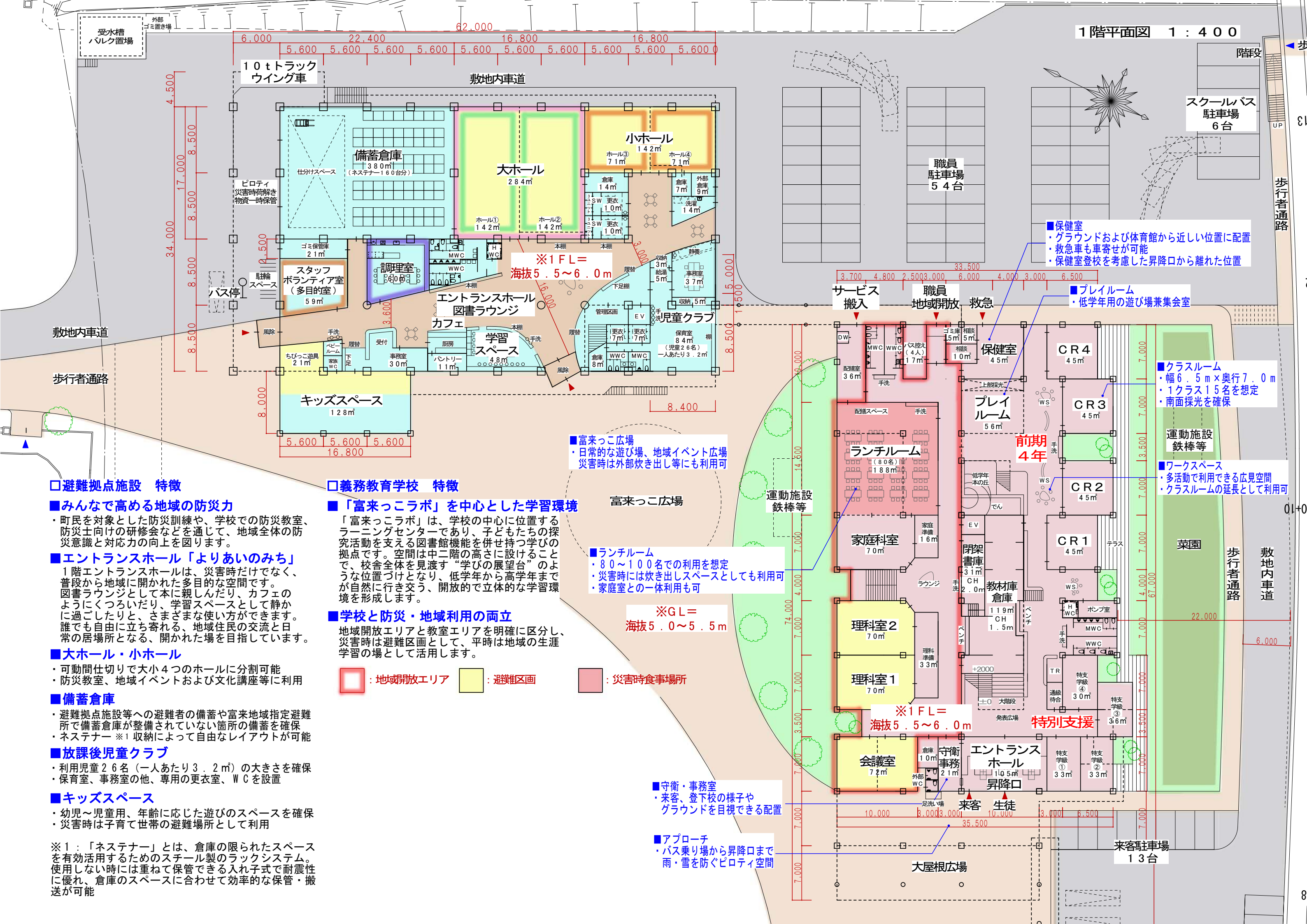
- ・昇降口横に守衛・事務室を配置して来校者を目視確認
- ・常時施錠対応、来客はインターホンおよび電気解錠にて対応
- ・敷地内要所および各出入口に防犯カメラを設置

- ・避難拠点施設および義務教育学校の玄関付近に「災害時緊急ボックス」を設置して、災害時は地域住民でも施設解錠できるように対応

- ・地震発生から津波到達が数分の場合：
避難拠点施設の内部・外部階段を利用して高所避難スペースへ
- ・地震発生から津波到達まで時間がある場合：
敷地東側の階段を利用して高台へ避難

$$\begin{aligned} L &= 290 \text{ m} \\ W &= 120 \text{ m} \end{aligned}$$

「会い」は子どもと地域が出会い学び合う場を生み、
「相」は互いを思いやるまなざしを育て、
「愛」は地域を支える温かな気持ちをつなぎ、
「和（あい）」は世代を超え調和する暮らしづくりです。
さらに、災害に向き合う「備え（そなえ）」の“あい”も重なり、
日常と非常時が地続きにつながる富来らしい強さを宿します。



避難拠点施設 特徴

- みんなで高める地域の防災力
・町民を対象とした防災訓練や、学校での防災教室、防災士向けの研修会などを通じて、地域全体の防災意識と対応力の向上を図ります。
- エントランスホール「よりあいのみち」
1階エントランスホールは、災害時だけでなく、普段から地域に開かれた多目的な空間です。図書ラウンジとして本に親しんだり、カフェのようにくつろいだり、学習スペースとして静かに過ごしたりと、さまざまな使い方ができます。誰でも自由に立ち寄れる、地域住民の交流と日常の居場所となる、開かれた場を目指しています。
- 大ホール・小ホール
・可動間仕切りで大小4つのホールに分割可能
・防災教室、地域イベントおよび文化講座等に利用
- 備蓄倉庫
・避難拠点施設等への避難者の備蓄や富来地域指定避難所で備蓄倉庫が整備されていない箇所の備蓄を確保
・ネステナー ※1 収納によって自由なレイアウトが可能
- 放課後児童クラブ
・利用児童26名（一人あたり3.2㎡）の大きさを確保
・保育室、事務室の他、専用の更衣室、WCを設置
- キッズスペース
・幼児～児童用、年齢に応じた遊びのスペースを確保
・災害時は子育て世帯の避難場所として利用

※1：「ネステナー」とは、倉庫の限られたスペースを有効活用するためのスチール製のラックシステム。使用しない時には重ねて保管できる入れ子式で耐震性に優れ、倉庫のスペースに合わせて効率的な保管・搬送が可能

義務教育学校 特徴

- 「富来っコラボ」を中心とした学習環境
「富来っコラボ」は、学校の中心に位置するラーニングセンターであり、子どもたちの探究活動を支える図書館機能を併せ持つ学びの拠点です。空間は中二階の高さに設けることで、校舎全体を見渡す“学びの展望台”のような位置づけとなり、低学年から高学年までが自然に行き交う、開放的で立体的な学習環境を形成します。
- 学校と防災・地域利用の両立
地域開放エリアと教室エリアを明確に区分し、災害時は避難区画として、平時は地域の生涯学習の場として活用します。



富来っコ広場
・日常的な遊び場、地域イベント広場
災害時は外部炊き出し等にも利用可

ランチルーム
・80～100名での利用を想定
・災害時には炊き出しスペースとしても利用可
・家庭室との一体利用も可

※GL＝
海拔5.0～5.5m

守衛・事務室
・来客、登下校の様子や
グラウンドを視視できる配置

アプローチ
・バス乗り場から昇降口まで
雨・雪を防ぐピロティ空間

■保健室
・グラウンドおよび体育館から近い位置に配置
・救急車も車寄せが可能
・保健室登校を考慮した昇降口から離れた位置

■プレイルーム
・低学年用の遊び場兼集会室

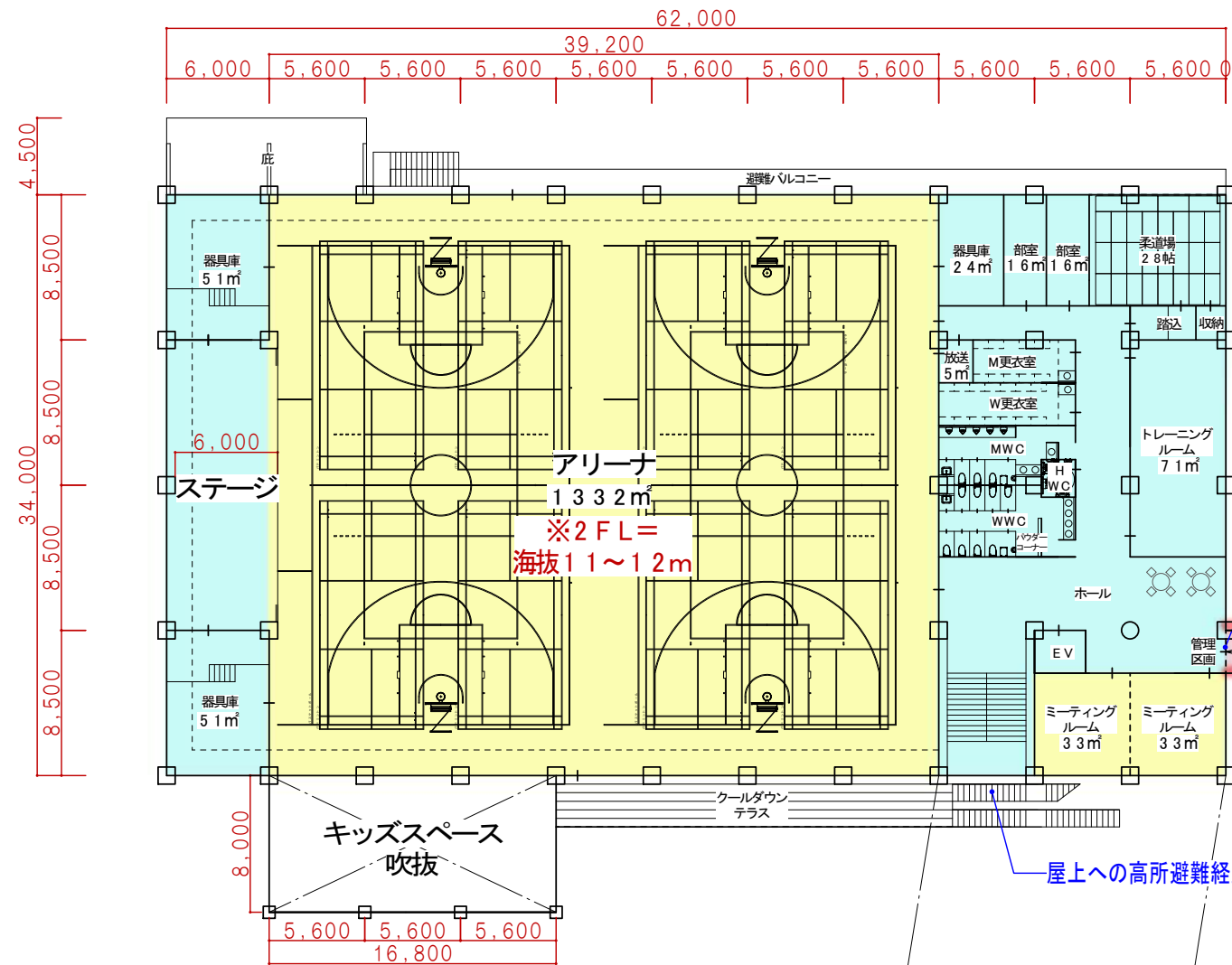
■クラスルーム
・幅6.5m×奥行7.0m
・1クラス15名を想定
・南面採光を確保

■ワークスペース
・多活動で利用できる広見空間
・クラスルームの延長として利用可

運動施設
鉄棒等

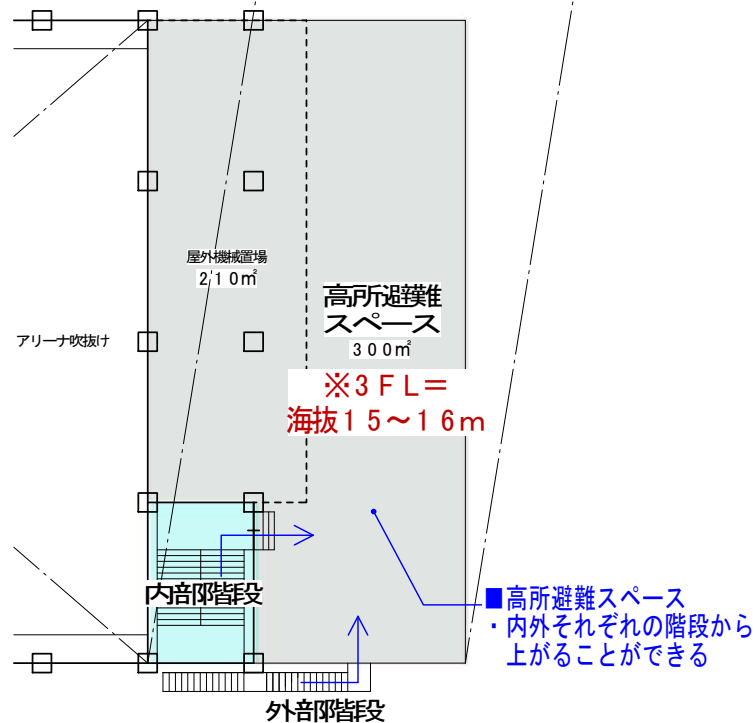
特別支援

来客駐車場
13台



■アリーナ規模
34m×39.2m=1,332㎡
天井高さ=梁下12.5m程度
バスケット2面
バレーボール2面
バドミントン8面

■各階WC
スフィア基準および利用形態（ホール・学校等）から
レベル1の待ち時間が少ない良好な器具数を確保



■高所避難スペース：想定避難人数
1人/㎡の場合、300人
2人/㎡の場合、600人

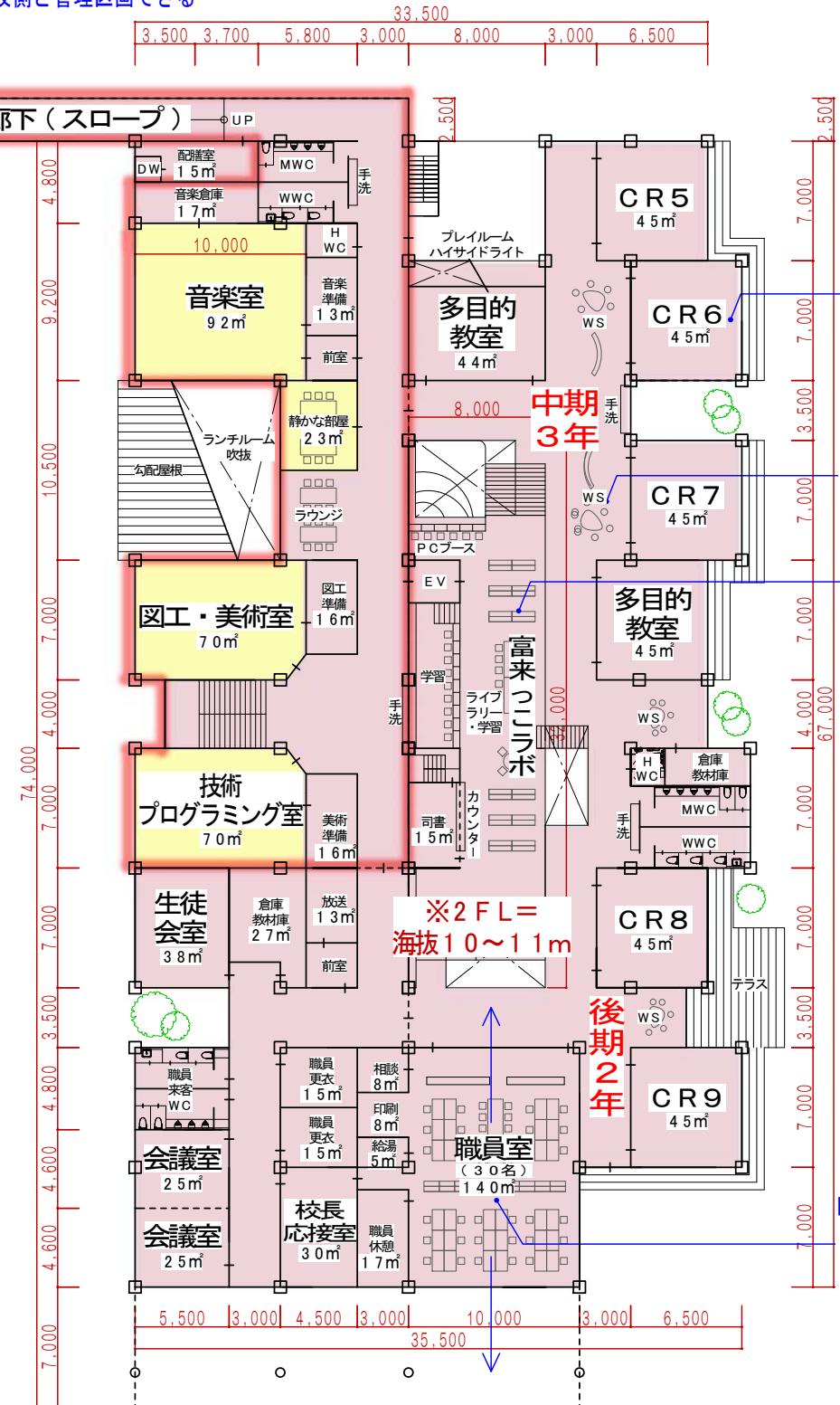
R階平面図 1 : 400

■：避難区画 ※一人あたりテントサイズ2m×2m

避難拠点施設	1階	大ホール・小ホール、キッズスペース	68人	288 ～
	2階	アリーナ、ミーティングルーム	220～252人	320人
義務教育学校	1階	理科室、会議室	26人	56人 ～ 344 ～ 376人
	2階	音楽室、図工・美術室、技術室	30人	

□：地域開放エリア

アリーナの地域イベント時には
学校側と管理区画できる



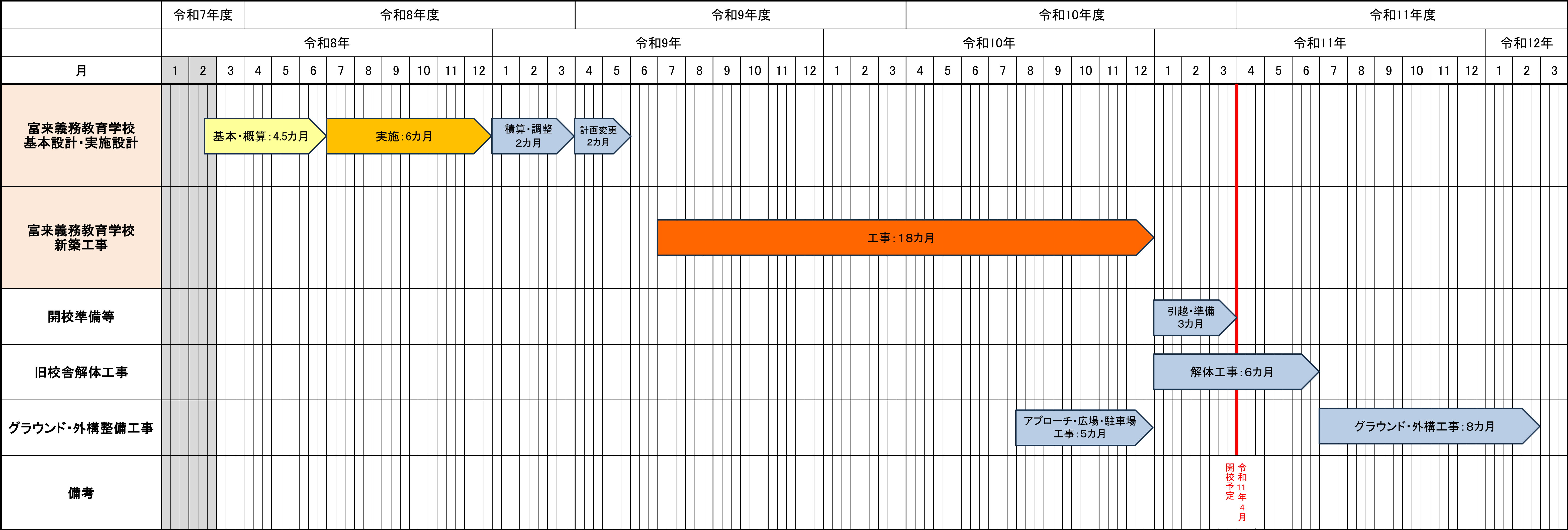
■クラスルーム
・幅6.5m×奥行7.0m
・1クラス15名を想定
・南面採光を確保

■ワークスペース
・多活動で利用できる広見空間
・クラスルームの延長として利用可

■富来っくらぼ
・子どもたちの探究活動を支える
図書館機能を併せ持つ学びの拠点
・中央の司書室で全体を管理

■職員室
・富来っくらぼ、CR廻り
グラウンド、登下校の様子を
目視できる中央配置

富来義務教育学校整備工事 スケジュール(案)



富来地域学校づくり準備委員会 組織体制（案）

